

倉敷中央病院整形外科専門研修プログラム

目次

- 1．倉敷中央病院整形外科専門研修プログラムについて
- 2．倉敷中央病院整形外科専門研修の特徴
- 3．倉敷中央病院整形外科専門研修の目標
- 4．倉敷中央病院整形外科専門研修の方法
- 5．専門研修の評価について
- 6．研修プログラムの施設群について
- 7．専攻医受入数
- 8．地域医療・地域連携への対応
- 9．サブスペシャリティ領域との連続性について
- 10．整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
- 11．専門研修プログラムを支える体制
- 12．専門研修実績記録システム、マニュアル等について
- 13．専門研修プログラムの評価と改善
- 14．専攻医の採用と修了

1. 倉敷中央病院整形外科専門研修プログラムについて

倉敷中央病院整形外科では、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、住民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。この理念を達成するために、専門研修プログラムとしては、以下の4点の修得を重要視しています。

i. 豊富な知識

整形外科医師としてあらゆる運動器疾患に関する知識を系統的に理解し、さらに日々進歩する新しい知見を時代に先駆けて吸収し続ける。

ii. 探究心

あらゆる運動器疾患に対する臨床的な疑問点を見出して解明しようとする姿勢を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を身につける。

iii. 倫理観

豊かな人間性と高い倫理観の元に、整形外科医師として心のこもった医療を患者に提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する。

iv. 実践的な技術

豊富な症例数に基づいた研修により、運動器全般に関して的確な診断能力を身につけ、適切な保存療法、リハビリテーションを実践する。そして基本手技から最先端技術までを網羅した手術治療を実践することで、運動器疾患に関する良質かつ安全な医療を提供する。

倉敷中央病院整形外科専門研修プログラムにおいては指導医が専攻医の教育・指導にあたりますが、専攻医自身も主体的に学ぶ姿勢をもつことが大切です。整形外科専門医は自己研鑽し自己の技量を高めると共に、積極的に臨床研究等に関わり整形外科医療の向上に貢献することが必要となります。チーム医療の一員として行動し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くことによって周囲から信頼されることも重要です。本研修プログラムでの研修後に皆さんは運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供するとともに、将来の医療の発展に貢献できる整形外科専門医となることが期待されます。

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児から高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、本研修プログラムでは1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた単位数以上を修得し、3年9ヶ月間で45単位を修得するプロセスで研修を行います。整形外科研修プログラムにおいて必要とされる症例数は、年間新患数が500例、年間手術症例が40例と定められておりますが、基幹施設および連携施設全体において年間新患数10,000名以上、年間手術件数およそ4,000件(他プログラムとの重複を除く)の豊富な症例数を有する本研修プログラムでは必要症例数をはるかに上回る症例を経験することが可能です。また学会での発表(年1回以上)と論文執筆(研修期間中1編以上)を行うことによって、各専門領域における臨床研究に深く関わりを持つことができます。

2. 倉敷中央病院整形外科専門研修の特徴

本研修プログラムでは、基幹施設および連携施設全体において脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、外傷、腫瘍、小児などの専門性の高い診療を早くから経験することで、整形外科専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修へと継続していくことができます。

① 倉敷中央病院整形外科

倉敷中央病院整形外科専門研修プログラムは到達目標を「自立したプロフェッショナルとしての整形外科医師」としています。

整形外科は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえた我国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。倉敷中央病院の診療圏は、岡山県西部を中心に、県北、広島県東部、香川県に及び、整形外科疾患全般および外傷を扱っています。現在、倉敷中央病院整形外科には、脊椎、股関節、膝関節、肩関節、手外科などの診療グループがあり、それぞれ手術症例が豊富にあります。救急救命センターが充実していますので1次から3次までの救急症例があり、救急科とは定期的にカンファレンスを行い連携をとっています。

週間予定

	月		火		水	木		金	
朝	抄読会				抄読会			抄読会	
午前	外来または病棟	手術	外来または病棟	手術	外来または病棟	外来または病棟	手術	外来または病棟	手術
午後	脊髄造影、 神経根ブロック など	手術	手術	手術	部長回診 カンファレンス	手術	手術	脊髄造影、 神経根ブロック など リハビリカンファ レンス	手術

② 専門研修連携施設

連携病院は、古くから人事交流のある京都大学医学部附属病院（I型基幹病院）、玉造病院、倉敷中央病院リバーサイドのほか地域医療研修としてしげい病院があります。執刀した症例は原則として主治医として担当することで、医師としての責任感や、患者やメディカルスタッフなどと良好な信頼関係を構築する能力も育んでいきます。機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。他府県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。本プログラムとは

別の地域における整形外科診療や病病連携、病診連携を経験することを目的に、他府県での研修を行います。

③ 研修コースの具体例

	1年目		2年目		3年目		4年目	
専攻医A	倉中	しげい	京大	玉造	倉中		倉中	
専攻医B	倉中		しげい	倉中	京大	玉造	倉中	倉中
専攻医C	倉中		倉中	しげい	倉中	京大	玉造	倉中
専攻医D	倉中		倉中	しげい	倉中	倉中	京大	リバー
専攻医E	倉中		倉中		しげい	倉中	リバー	京大

倉 中：倉敷中央病院

京 大：京都大学医学部附属病院（6 か月）

玉 造：玉造病院（6 か月）

リバー：倉敷中央病院リバーサイド（6 か月）

しげい：しげい病院（3 か月）

専攻医A		1年目		2年目		3年目	4年目	修了時
		倉中	しげい	京大	玉造	倉中	倉中	
a脊椎	6単位	3				3		6
b上肢・手	6単位	1		4		1		6
c下肢	6単位	3		2		1		6
d外傷	6単位					3	3	6
eリウマチ	3単位				3			3
fリハビリ	3単位				3			3
gスポーツ	3単位					1	2	3
h地域医療	3単位		3					3
i小児	2単位	2						2
j腫瘍	2単位					2		2
k流動	5単位					1	4	5
合計		9	3	6	6	12	9	45

専攻医B		1年目	2年目			3年目		4年目	修了時
		倉中	しげい	倉中	京大	玉造	倉中	倉中	
a脊椎	6単位	3		3					6
b上肢・手	6単位	1			4		1		6
c下肢	6単位				2			4	6
d外傷	6単位	3					3		6
eリウマチ	3単位		e			3			3
fリハビリ	3単位					3			3
gスポーツ	3単位	3							3
h地域医療	3単位		3						3
i小児	2単位	2							2
j腫瘍	2単位						2		2
k流動	5単位							5	5
合計		12	3	3	6	6	6	9	45

専攻医C		1年目	2年目			3年目		4年目	修了時
		倉中	倉中	しげい	倉中	京大	玉造	倉中	
a脊椎	6単位	3						3	6
b上肢・手	6単位	1			1	4			6
c下肢	6単位	3				2		1	6
d外傷	6単位	3			3				6
eリウマチ	3単位						3		3
fリハビリ	3単位						3		3
gスポーツ	3単位		3						3
h地域医療	3単位			3					3
i小児	2単位	2							2
j腫瘍	2単位				2				2
k流動	5単位							5	5
合計		12	3	3	6	6	6	9	45

専攻医D	1年目		2年目		3年目		4年目		修了時
	倉中	倉中	しげい	倉中	倉中	京大	リバー	倉中	
a脊椎 6単位	3				3				6
b上肢・手 6単位		1		1		4			6
c下肢 6単位					1	2	3		6
d外傷 6単位	3	3							6
eリウマチ 3単位	1			2					3
fリハビリ 3単位			3						3
gスポーツ 3単位	3								3
h地域医療 3単位							3		3
i小児 2単位		2							2
j腫瘍 2単位	2								2
k流動 5単位					2			3	5
合計	12	6	3	3	6	6	6	3	45

専攻医E	1年目	2年目		3年目		4年目		修了時
	倉中	倉中	しげい	倉中	リバー	京大	倉中	
a脊椎 6単位		6						6
b上肢・手 6単位		1		1		4		6
c下肢 6単位	1				3	2		6
d外傷 6単位	3			3				6
eリウマチ 3単位	3							3
fリハビリ 3単位			3					3
gスポーツ 3単位	3							3
h地域医療 3単位					3			3
i小児 2単位		2						2
j腫瘍 2単位	2							2
k流動 5単位				2			3	5
合計	12	9	3	6	6	6	3	45

3. 倉敷中央病院整形外科専門研修の目標

① 専門研修後の成果

整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）
- 3) 診療記録の的確な記載ができること
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと

② 到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）

1) 専門知識

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を涵養します。さらに、進歩する医学の新しい知識を修得できるように、幅広く基本的、専門的知識を修得します。専門知識習得の年次毎の到達目標を整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料1に示します。

2) 専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する幅広い基本的な専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）を身につけます。専門技能習得の年次毎の到達目標を整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料2に示します。

3) 学問的姿勢

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得することができることを一般目標とし、以下の行動目標を定めています。

- i. 経験症例から研究テーマを立案しプロトコルを作成できる。
- ii. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
- iii. 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
- iv. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。
- v. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
- vi. 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

さらに、本研修プログラムでは学術活動として、下記2項目を定めています。

- i. レジデントカンファレンスへの参加および同会での研究発表。
- ii. 外部の学会での発表（年1回以上）と論文作成（研修期間中1編以上）。

4) 医師としての倫理性、社会性など

- i. 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）

医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。本専門研修プログラムでは、指導医とともに患者・家族への診断・治療に関する説明に参加し、実際の治療過程においては受け持ち医として直接患者・家族と接していく中で医師としての倫理性や社会性を理解し身につけていきます。

- ii. 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること

整形外科専門医として、患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとの的確な医療を実践できること、医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応がマニュアルに沿って実践できることが必要です。本専門研修プログラムでは、専門研修（基幹および連携）施設で、義務付けられる職員研修（医療安全、感染、情報管理、保険診療など）への参加を必須とします。また、インシデント、アクシデントレポートの意義、重要性を理解し、これを積極的に活用することを学びます。インシデントなどが診療において生じた場合には、指導医とともに報告と速やかな対応を行い、その経験と反省を施設全体で共有し、安全な医療を提供していくことが求められます。

- iii. 臨床の現場から学ぶ態度を修得すること

臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。本専門研修プログラムでは、知識を単に暗記するのではなく、「患者か

ら学ぶ」を実践し、個々の症例に対して、診断・治療の計画を立てて診療していく中で指導医とともに考え、調べながら学ぶプログラムとなっています。また、毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスでは個々の症例から幅広い知識を得たり共有したりすることからより深く学ぶことが出来ます。

iv. チーム医療の一員として行動すること

整形外科専門医として、チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動できること、的確なコンサルテーションができること、他のメディカルスタッフと協調して診療にあたることができることが求められます。本専門研修プログラムでは、指導医とともに個々の症例に対して、他のメディカルスタッフと議論・協調しながら、診断・治療の計画を立てて診療していく中でチーム医療の一員として参加し学ぶことができます。また、毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスでは、指導医とともにチーム医療の一員として、症例の提示や問題点などを議論していきます。

v. 後輩医師に教育・指導を行うこと

自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように、学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当してもらい、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導も担ってもらいます。本専門研修プログラムでは、基幹施設においては指導医と共に学生実習の指導の一端を担うことで、教えることが、自分自身の知識の整理につながることを理解していきます。また、連携施設においては、後輩医師、他のメディカルスタッフとチーム医療の一員として、互いに学びあうことから、自分自身の知識の整理、形成的指導を実践していきます。

③ 経験目標（種類、内容、経験数、要求レベル、学習法および評価法等）

1) 経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術・処置等

整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を倉敷中央病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。本専門研修プログラムの基幹施設である倉敷中央病院整形外科では、研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。症例を十分に経験した上で、上述したそれぞれの連携施設において、施設での特徴を生かした症例や技能を広くより専門的に学ぶことができます。

2) 地域医療の経験（病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など）

整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料 3：整形外科専門研修カリキュラムの中にある地域医療の項目に沿って周辺の医療施設との病病・病診連携の実際を経験します。

本プログラムの研修施設の玉造病院（島根県）は地域中核病院であり、倉敷中央病院リバーサイド、しげい病院は連携パスなどでの関わりの深い病院です。本プログラムにおいて地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じ

た病診連携、病病連携のあり方について理解し、実践することができます。地域において指導の質を落とさないため、専門研修プログラム管理委員会が指定した指導医と勉強会、カンファレンスの機会を設けたり、指導医に非常勤で外来診療、手術の指導などを受けたりするなどして密接な連携をとります。

他府県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。本プログラムとは別の地域における整形外科診療や病病連携、病診連携を経験することを目的に、他府県での研修を行います。

3) 学術活動

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得します。また、臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導きだし、論理的に正しくまとめる能力を修得するため、年 1 回以上の学会発表、筆頭著者として研修期間中 1 編以上の論文を作成します。京都大学整形外科同門会が主催する整形外科卒後研修セミナーに参加することにより、他大学整形外科施設からの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

本プログラムのレジデントカンファレンスへの参加、さらに同会での研究発表を行うことにより、臨床研究に対する考え方を習得することができ、また学会発表に対する訓練を積むことができます。

4. 倉敷中央病院整形外科専門研修の方法

① 臨床現場での学習

研修内容を修練するにあたっては、1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制を取り、全カリキュラムを 10 の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3 年 9 ヶ月間で 45 単位を修得する修練プロセスで研修します。術者として経験すべき症例については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料 3：整形外科専門研修カリキュラムに示した（A：それぞれについて最低 5 例以上経験すべき疾患、B：それぞれについて最低 1 例以上経験すべき疾患）疾患の中のものとします。

術前術後カンファレンスにおいて手術報告をすることで、手技および手術の方法や注意点を深く理解し、整形外科的専門技能の習得を行います。

指導医は上記の事柄について、責任を持って指導します。

② 臨床現場を離れた学習

日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演（医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む）に参加します。また関連学会・研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修会、各種研修セミナーで、国内外の標準的な治療および先進的・研究的治療を学習します。また、京都大学整形外科同門会が主催する整形外科卒後研修セミナーに参加することにより、他大学整形外科施設からの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

③ 自己学習

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演受講、日本整形外科学会が作成する e-Learning や Teaching file などを活用して、より広く、より深く学習することができます。日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用 DVD 等を利用することにより、診断・検査・治療等についての教育を受けることもできます。

④ 専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得することを目指します。

- 1) 具体的な年度毎の達成目標は、資料 1：専門知識習得の年次毎の到達目標及び資料 2：専門技能習得の年次毎の到達目標を参照のこと。
- 2) 整形外科の研修で修得すべき知識・技能・態度は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性を対象とし、専門分野も解剖学的部位別に加え、腫瘍、リウマチ、スポーツ、リハビリ等多岐に渡ります。この様に幅広い研修内容を修練するにあたっては、別添した研修方略（資料 6）に従って 1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを 10 の研修領域に分割し、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3 年 9 ヶ月間で 45 単位を修得する修練プロセスで研修します。研修コースの具体例は上の表に示した通りです。

5. 専門研修の評価について

① 形成的評価

1) フィードバックの方法とシステム

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表（資料 7）の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表（資料 8）で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表（資料 7）の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。尚、これらの評価には日本整形外科学会会員マイページを用います。指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

2) 指導医層のフィードバック法の学習 (FD)

指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案（研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成）、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

② 総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

専門専攻研修 4 年目の 12 月に研修期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを習得したかどうかを判定します。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

3) 修了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。

修了認定基準は、

- i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること（整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料 9）。
 - ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
 - iii. 臨床医として十分な適性が備わっていること。
 - iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
 - v. 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
- の全てを満たしていることです。

4) 多職種評価

専攻医に対する評価判定に多職種（看護師、技師等）の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行います（整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料 10）。

6. 研修プログラムの施設群について

【専門研修基幹施設】

倉敷中央病院が専門研修基幹施設となります。

【専門研修連携施設】

倉敷中央病院整形外科研修プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りです。

- ・ 京都大学医学部附属病院（I 型基幹施設として独自プログラムあり）
- ・ 倉敷中央病院リバーサイド
- ・ 玉造病院
- ・ しげい病院

他府県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。本プログラムとは別の地域における整形外科診療や病病連携、病診連携を経験することを目的に、他府県での研修を行います。

【専門研修施設群】

倉敷中央病院と連携施設により専門研修施設群を構成します。

7. 専攻医受入数

各専攻医指導施設における専攻医総数の上限（4 学年分）は、当該年度の指導医数×3 となっています。各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。またプログラム参加施設の合計の症例数で専攻医の数が規定され、プログラム全体での症例の合計数は、（年間新患数が 500 例、年間手術症例を 40 例）×専攻医数とされています。

この基準に基づき、専門研修基幹施設である倉敷中央病院と専門研修連携施設全体の指導医数は 19 名、年間新患数 10,000 名以上、年間手術件数およそ 4,000 件（いずれも他プログラムとの重複を除いた数）と十分な指導医数・症例数を有しますが、質、量ともに十分な指導を提供するために 1 年 5 名、4 年で 20 名を受入数とします。

8. 地域医療・地域連携への対応

整形外科専門医制度は、地域の整形外科医療を守ることを念頭に置いています。地域医療研修病院における外来診療および二次救急医療に従事し、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また地域医療研修病院における周囲医療機関との病病連携、病診連携を経験・習得します。地域医療研修病院に 3 ヶ月（3 単位）以上勤務することによりこれを行います。

地域において指導の質を落とさないため、専門研修プログラム管理委員会が指定した指導医と勉強会、カンファレンスの機会を設けたり、指導医に非常勤で外来診療、手術の指導などを受けたりするなどして密接な連携をとります。

他府県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。本プログラムとは別の地域における整形外科診療や病病連携、病診連携を経験することを目的に、他府県での研修を行います。

9. サブスペシャリティ領域との連続性について

倉敷中央病院整形外科研修プログラムでは各指導医が脊椎、股関節、膝関節、肩関節、手外科等のサブスペシャリティを有しています。専攻医が興味を有し将来指向する各サブスペシャリティ領域については、指導医のサポートのもと、より深い研修を受けることができます。なお、専攻医によるサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加は強く推奨されます。

10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。

留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合があります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

1 1．専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である倉敷中央病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一度開催します。

② 労働環境、労働安全、勤務条件

労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設の病院規定によります。

- 1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- 4) 施設の給与体系を明示し、3年9ヶ月間の研修で専攻医間に大きな差が出ないように配慮します。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従います。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を行います。

総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は倉敷中央病院整形外科専門研修管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれます。

1 2．専門研修実績記録システム、マニュアル等について

① 研修実績および評価の記録

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科学会会員マイページを用います。

② プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル（資料13）、②整形外科指導医マニュアル（資料12）、③専攻医取得単位報告書（資料9）、④専攻医評価表（資料10）、⑤指導医評価表（資料8）、⑥カリキュラム成績表（資料7）を用います。

③ 指導者研修計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

参照資料

整形外科専門研修プログラム整備基準および付属資料(日本整形外科学会ホームページ)

<http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>

- 資料 1 専門知識習得の年次毎の到達目標
- 資料 2 専門技能習得の年次毎の到達目標
- 資料 3 整形外科専門研修カリキュラム
- 資料 4 整形外科専攻医が経験すべき症例数の根拠
- 資料 5 研修スケジュール
- 資料 6 研修方略
- 資料 7 カリキュラム成績表
- 資料 8 指導医評価表(専攻医用)
- 資料 9 専攻医獲得単位報告書
- 資料 10 整形外科専攻医評価表
- 資料 11 プログラム施設基準と研修プログラム群の概念図
- 資料 12 整形外科指導医マニュアル
- 資料 13 整形外科専攻医研修マニュアル
- 資料 14 整形外科基本領域研修制度

1.3. 専門研修プログラムの評価と改善

① 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時(指導医交代時)毎に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

② 専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス

専攻医は、各ローテーション終了時に指導医や研修プログラムの評価を行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出、研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

③ 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修指導医及び専攻医は真摯に対応、プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

1 4．専攻医の採用と修了

① 採用方法

応募資格

初期臨床研修修了見込みの者であること。

採用方法

基幹施設である倉敷中央病院に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページで毎年公表します。

プログラムへの応募者は、応募期間、選考方法、必要書類などを倉敷中央病院の Recruiting Website <https://www.kch.net.or.jp/resident/sr/recruit-sr.aspx> でご確認ください。

② 修了要件

- 1) 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- 2) 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- 3) 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- 4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の
手続により 30 単位を修得していること。
- 5) 1 回以上の学会発表を行い、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

以上 1) ～ 5) の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 12 月に、研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。